

ものとぞ見えける、さらば或人の説の如くにやあるらむ、モチとは其木の茂盛りなるをいひしなるべし、花の繁くさきぬるを、もりさくなど萬葉集の歌によみて、又茂の字讀てモチともいふ也、藻鹽草に藕木と云るして、モチキノキと讀みし歌を引きしは、此樹の事と見えたり、その藕の木とするせしは、此木の皮をもて黏藕となすをいふなるべし、黏藕をモチといふも、樹の名によれるにや、子ズミモチといふものは、倭名抄には四聲字苑を引て、椶鼠梓木也、漢語抄に子ズミモチといふと見えたり、古と今と名は同じけれど、さしいふ所異なるも知るべからず、藻鹽草に椶といふもの、如きは未詳なりと、若水稻子は云ひたりき、

〔倭訓栞中編二十一〕ひめつばき 新撰字鏡、和名抄に、女貞を訓せり、今てらつばき又やぶつばき、又ねづみもちの木ともいへり、

〔大和本草十一〕女貞 子ズミモチ 一名冬青云、女貞櫛ナ、ミノ木、此三品皆冬青樹ト云、三品同名異物ニテ各別ノ物ナリ、本草綱目及李時珍食物本草註ヲ考、見ルベシ、本草綱目灌木部、女貞一名冬青、別有冬青、與此同名、今案方書所用冬青皆女貞子ズミモチ也、世ニ多シ、其木ニ蟲蠟アリ、イボタト云、蠟ニ作ル、白蠟ト云、

〔和漢三才圖會八十四〕女貞 貞木 冬青 蠟樹 和名太豆乃木 又云比女豆波木 俗云鼠乃

久曾、又云狗都波木 又云鼠麴

按女貞木葉似海石榴、而無鋸齒、故名姬海石榴、其子團長、初青熟正黑、似鼠屎、鸚鵡喜食之、但葉長不過二寸、其文理不出于端、與他葉異也、而本草曰長四五寸者、和漢之異然乎、又造成白蠟者、未知然乎否、

〔重修本草綱目啓蒙二十五〕女貞

子ズミモチノキ備前 子ズミモチノキ和名 子ズモチノキ古歌 子ズモチヤウ防州  
 子ズミノモチ越前 子ズミノキ備前 子ズミギ豫州 子ズギ阿州